

ま え が き

平成24年8月に中央教育審議会は「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について（答申）」を出しました。本答申では、これからの教員に求められる資質能力として、探究力、教職生活全体を通じて自主的に学び続ける力、専門職としての高度な知識・技能等を挙げています。このような資質能力を向上させる研修として効果を上げているのがこの長期研修員制度です。

本県における長期研修員制度は、昭和50年に始まり、昨年度までに県内各地方に送り出した研修員はのべ490名に上ります。研修員は学校教育に関わる諸課題の解決を目指して研究を行い、本県教育の充実・発展に大きく寄与してきました。

本年度の研修員は、各学校や地域の教育課題を解決するための「課題研究」、教育相談・特別支援教育に関する「課題研修」の2つに分かれ、真摯な態度で研修に取り組んできました。

ここに、平成24年度和歌山県教育センター学びの丘研修員の1年間にわたる研修・研究の成果の一端を「研究集録（第38集）」として刊行いたしました。

研究成果については、本年2月3日に開催した第3回和歌山教育実践研究大会において、報告したところです。各学校においては、この研究集録とともに、当センター学びの丘のホームページに掲載している関連資料も併せ、これからの教育実践の参考として活用いただければ幸甚です。

最後になりましたが、研修員の研修に際して、御支援・御協力をいただきました学校及び関係教育機関の方々に、心からお礼を申し上げます。

平成25年3月

和歌山県教育センター学びの丘
所 長 安 岡 勝 彦